



故林文子理事長

悲報 林文子名誉教授

林文子名誉教授（元医療技術短期大学部診療放射線技術学科）は、去る10月9日、直腸腫瘍再発のため逝去されました。享年66歳。

同名誉教授は、愛知県名古屋市生まれ。昭和26年岐阜県立医科大学岐阜県立女子医学専門学校卒業、岐阜県立医科大学附属病院において1年間の実地修練後、同大研究生として放射線医学講座に在学、昭和29年12月同大医員（第1内科）、昭和32年4月同大研究生（放射線医学）、昭和33年8月長崎大学医学部見學員（放射線医学）、昭和35年9月長崎原爆病院（放射線科）に勤務、昭和36年8月長崎大学医学部研究生（放射線医学）、昭和37年10月名古屋大学医学部研究生（放射線医学）、昭和39年1月同大助手、昭和44年6月聖路加国際病院（放射線科）、昭和47年1月名古屋市立東市民病院放射線科部長を経て、昭和56年4月名古屋大学医療技術短期大学部教授（診療放射線技術学科）に就任、平成3年3月に停年退官されるまで医療技術者の教育及び診療・研究に専念されました。平成元年7月から健康文化振興財団を発足され、理事長として診療放射線技術学における情報の提供、新しい研究活動の助成、近隣諸国との留学生交流などを通じて健康と文化の振興に大いに寄与されました。

同名誉教授の専門は、放射線診断学・治療学・核医学など放射線医学全般にわたるが、特に放射線診断学の研究分野は各種脈管造影技術を駆使した画像診断法で、岐阜大学医学部放射線医学講座において日本で最初の心臓血管造影法が玉木正男教授により始められた時、この心臓血管造影に必須の高濃度造影剤に関して基礎的実験研究を分担し、優れた業績を残されました。また名古屋大学医学部放射線医学講座では、故高橋信次教授によって世界で初めて開発された回転横断撮影装置の臨床応用、特に頸部領域のX線診断法の研究に参画従事され、他方、照射前の病変部の詳細な検索を各種脈管造影法によって行い、子宮癌などの原体照射法の発展に寄与されました。更に、名古屋大学医療技術短期大学部では、コンピュータ支援教育(CAI)を導入した教育方法の改善を図ってこられました。

学会活動としては、放射線医学に関わる各種学会に所属され、日本画像医学会では、評議員として学会運営にも参画されました。

これら教育・研究上の功績にたいして平成3年4月名古屋大学医療技術短期大学部名誉教授の称号が授与されました。

同名誉教授の教育・研究の精神は、医療技術短期大学部診療放射線技術学科において継承・発展されるでしょう。

ここに慎んで先生の御冥福をお祈りいたします。

(名古屋大学学報から転載、一部修正)